

ショートステイから見える在宅福祉・介護保険の今

ショートステイに関する現状調査 報告書(概要)

※調査結果の詳細は、『ショートステイから見える在宅福祉・介護保険の今』(A4判120頁/800円)に掲載しています。
<http://www.tcsw.tvac.or.jp/php/TBookSyousai.php?key=400015&PHPSESSID=4f5d059f573d09d77bc0ffdf70d75771>

I 調査実施のあらまし

- (1) 調査名称 ショートステイに関する現状調査
- (2) 実施時期 平成19年12月20日～平成20年1月20日
- (3) 調査対象
 - ①利用者・家族向け調査
下記事業所の利用者・家族5名に依頼(事業所に調査票を送付し依頼)。
 - ・東社協センター部会会員地域包括支援センター及び在宅介護支援センターに併設している居宅介護支援事業所
 - ・東社協介護保険居宅事業者連絡会会員の居宅介護支援事業所
 - ②ケアマネジャー向け調査
下記事業所のケアマネジャー2名に依頼。
 - ・東社協センター部会会員地域包括支援センター及び在宅介護支援センターに併設している居宅介護支援事業所
 - ・東社協介護保険居宅事業者連絡会会員の居宅介護支援事業所
 - ③ショートステイ事業所向け調査
東社協高齢者施設福祉部会会員施設併設の短期入所生活介護事業所
- (4) 回答数 ①392名、②334名、③258事業者(回収率68.6%)
- (5) 実施方法 郵送調査法による無記名自記式
- (6) 調査項目
 - ① 施設を選んだ理由、ショートステイに求めること、利用して良かったこと、望むショートステイなど
 - ② ケアプラン作成数およびショートステイ利用者数、介護者状況、他のサービス利用状況、利用頻度・日数、利用目的、ショートステイ事業所への情報提供と情報収集、利用によるプラス効果とマイナス面、ショートステイ事業所との調整でのケアマネジメント上の課題、ショートステイ事業に関して感じていることなど
 - ③ 定員、居室種別、加算状況などの基本データ、利用実績率、平均介護度、申込み方法、申込み開始時期、面接等情報収集と情報提供、緊急対応、医療的ケア必要者の受入れ、重度認知症の方の受入れ、特色的な取り組み、利用中の事故や苦情、困難事例など

II 調査結果のあらまし

1 利用者・家族向け調査結果の概要

(1) 回答者の属性

本人 8.2%、家族 78.3%、その他（ヘルパーなど） 11.2%
不明・無回答 2.3%

(2) ショートステイに求めること（複数回答）上位記載

- ・家族（介護者）の休息 86.7%
- ・家族（介護者）が冠婚葬祭等で不在 59.2%
- ・本人の気分転換 39.0%
- ・専門的な入浴や食事等の介護を受けたい 38.0% など

(3) ショートステイを利用しようとして起きたこと（複数回答）上位記載

- ・希望の日程では利用できなかった 43.4%
 - ・「空き」がなくて断られた 40.6%
- その他、「医師の診断書が必要だと言われた」「緊急時でも対応できないと断られた」など

(4) ショートステイを利用した感想・意見（自由回答）上位記載

- ・助かる、感謝している 63件
- ・介護負担が軽減できた 52件
- ・楽しく利用している、安心できる 28件
- ・緊急対応への不安、職員耐性への不満を感じる 25件 など

(5) あなたの望むショートステイとは（自由回答）上位記載

- ・緊急対応が可能 32件
- ・利用したいときに利用できる 28件
- ・満足している 22件
- ・退屈さを軽減してくれる 19件 など

2 ケアマネジャー向け調査結果の概要

(1) ショートステイ利用者の状況

- ① ケアマネジャー1人につき 平均4.5人
- ② 要介護度の状況 要介護度3～5 66.2%
(要介護度3 25.1%、要介護度4 23.5%)
- ③ 介護者の状況
 - ・同居親族が介護 85.6%
 - ・ひとり暮らしだが、別居親族が介護 6.8%

(2) ショートステイ利用状況

- ① 緊急利用状況 利用したケースあり 47.3%
(うち緊急理由 介護者の病気等40.0%)
- ② 利用頻度（回数）
1カ月に1回程度 69.9%、1カ月に2回程度18.1%

- ③ ショートステイの利用目的（複数回答）上位記載
 - ・ 家族（介護者）の介護負担軽減 79.1%
 - ・ 家族（介護者）との良好な関係維持のため 34.6%
 - ・ 専門的なケアサービスの利用（食事・入浴等） 28.0% など
- (3) ショートステイ中の状態の情報収集手段
 - ・ 本人・家族に問い合わせた 50.2%
 - ・ 施設に問い合わせた 38.0%
 - ・ 施設から連絡があった 28.6% など
- (4) ショートステイ利用のプラス効果とマイナス面（複数回答）
 - ① プラス効果
 - ・ 家族（介護者）の休養 78.2%
 - ・ 本人の気分転換 24.6%
 - ・ 専門的なケアサービスの利用により、身体状況・精神状態の安定 23.5%
 - その他、「入浴ができた」「施設入所や入院までのつなぎ」など
 - ② マイナス面
 - ・ 環境の変化により、混乱や疲れ 32.2%
 - ・ ADLの低下（歩行不安定等） 23.4%
 - ・ 利用前の生活に戻るまで時間がかかった 17.0% など
- (5) ショートステイ利用に関して受入れ施設との調整の際、ケアマネジメント上の課題と感じていること（自由回答）上位記載
 - ・ 緊急時の受入れができない 21件
 - ・ 利用したいときに利用できない 21件
 - ・ 医療対応 20件
 - ・ ADLの低下 15件
 - ・ 予約方法 14件 など
- (6) ショートステイ事業に関して、感じていること（自由回答）
 - ・ 緊急時の受入れができない 35件
 - ・ ベッド数が少ない 28件
 - ・ 利用したいときに利用できない 20件
 - ・ プログラム不足 19件
 - ・ 予約方法 17件 など

3 ショートステイ事業所向け調査結果の概要

(1) 基本情報

- ① 単独型 3.9%、併設型 94.6%
- ② 多床室型 37.6%、混合型 20.9%、個室型 10.1%
- ③ 定員：1～5人 21.3%、6～10人 40.7%、
11～15人 8.9%、16～20人 10.9%
- ④ 空床利用定員：5人 19.4%、10人 11.2%、3人 9.3%
- ⑤ 申込み方法：電話 76.0%、FAX 62.8%
- ⑥ 申し込み時期：2カ月前 52.3%、3カ月前 22.1%、

1ヵ月前 7.4%

⑦入・退所時間の設定：決めている79.8%、決めていない19.4%

(2) 平成19年度上半期の利用状況

① 利用実績

60~80% 10.5%、80~100% 26.4%

100~120% 27.1%、120~140% 14.3%

②利用者の平均介護度

3~3.5の人 46.1%、2.5~3の人 23.3%

3.5~4の人 12.0%

(3) 利用前後の情報収集・提供

①事前面接の実施

「新規利用」：必ず実施74.8%、必要に応じて実施13.6%、
実施していない9.7%

「継続利用」：必ず実施7.0%、必要に応じて実施63.2%、
実施していない24.8%

② 利用後の情報提供

「ご家族へ」：利用の都度75.6%、必要に応じて8.5%

「ケアマネへ」：利用の都度8.9%、必要に応じて74.0%

(4) 緊急対応

①緊急対応用ベッド確保の有無：なし 75%、あり 23%

②緊急対応用ベッド確保方法：行政からの委託58.3%、施設独自33.3%

③緊急対応ベッドの利用理由：

介護者の病気等 73.3%、虐待回避 51.7%など

(5) 医療的ケアの必要な方の受入れ

①受け入れている 76.4%、受け入れていない 21.7%

②受入れ状況（①で受け入れていると回答した事業者）

在宅酸素 76.1%、胃ろう 60.9%、

その他、「鼻腔経管」「インスリン」「カテーテル」「人工肛門」など

③受入れ条件（自由回答）

- ・自己管理ができる（インスリン、在宅酸素など）
- ・状態が安定している、共同生活が可能、人数制限
- ・主治医の許可、緊急時の対応方法の確認共有 など

(6) 重度の認知症の方の受入れ

①受け入れている 86.4%、受け入れていない 10.0%

②受入れ条件（自由回答）

- ・暴力行為など他利用者への危害がない、自傷行為がない
- ・徘徊・無断外出がない
- ・常時のマンツーマン対応を必要としない など

(7) 事業所の特徴的な取り組み（自由回答）

- ・特養・デイのプログラムに参加
- ・おやつ作り・レク活動等、ショート事業所として取り組んでいる
- ・衣類のレンタル など

(8) 事故状況（19年度上半期）

転倒等によるケガ 53.0%、薬の誤配 15.2%

その他、「骨折、外傷」「出血」「異食」「利用者間のトラブル」など

(9) 苦情内容（複数回答）

・サービス提供内容に関すること 39.1%

・お願いしたことがなされていない 37.2%

それ以下、「けが、病気」「精神面・身体面の状況変化」「職員のマナー」の順

(10) ケアマネジャーへの要望等（複数回答）

・利用者の情報が不十分、または誤っている 62.0%

・ご本人が利用について十分に納得されていない 46.9%

・ご家族がサービス内容を十分に理解されていない 39.1%

その他、「急な申込みが多い」「キャンセル連絡が遅い」「ショートステイの知識が不十分」「ケアプランにショートステイ情報が載っていない」など

(11) 困難事例（自由回答）

・大声や転倒リスクが多い状態での徘徊など重度認知症に関すること 39件

・帰宅願望が強い（介護拒否、服薬拒否など） 25件

その他、「医療的な処置が必要となった」「家族が迎えに来ない」「暴力行為」「感染症」「要望が多い」など

(12) ショートステイを実施する上で「利用者の在宅生活を支える」という観点から課題と感じていること（自由回答）

・在宅に戻ってからの混乱を少なくするため、在宅での生活に近い状況で過ごしてもらうこと。

・事前予約のため、急に必要となった時の対応が困難となってしまうこと。

・家族負担の大きな医療的ケアを必要とする方の受入れの充実を図ること。

・ADLが低下しないようリハビリに力を入れ、本人・ご家族に安心してもらうこと。

・他利用者の方々とのコミュニケーションを楽しんでもらえるよう配慮すること。

・ベッドの確保が難しく、介護負担軽減になりにくい

・家族に対して介護技術や緊急時の対応の相談機会等を拡充する必要があること

・ケアマネジャーが、家族の意向を尊重しすぎ、利用者本人が望んでこないことが多くあること。

・職員配置などの状況により、施設のやり方に合わせてもらう感じになること。

・利用者の状態を、介護士の視点から継続して見ることができない難しさ。

・施設の廊下が広い、部屋が広いことから、つたい歩きが難しく転倒のリスク回避から歩行器や車椅子利用が多くなること。